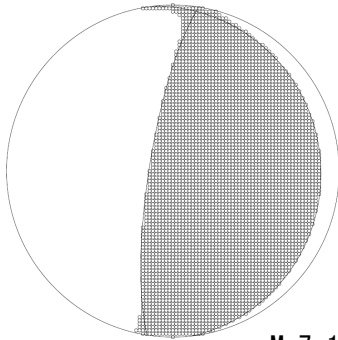


1月3日 チリ中部沿岸の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phase による解

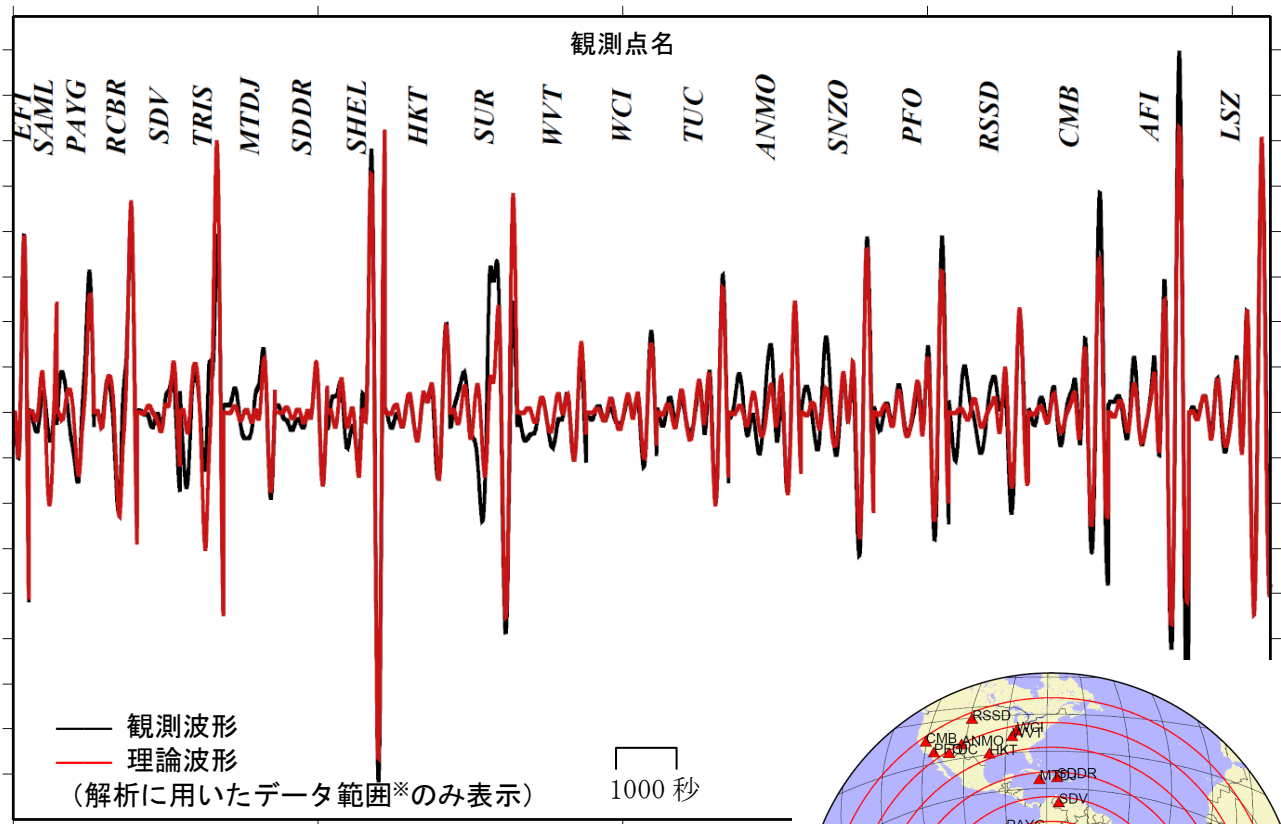


Mw7.1 (7.14)

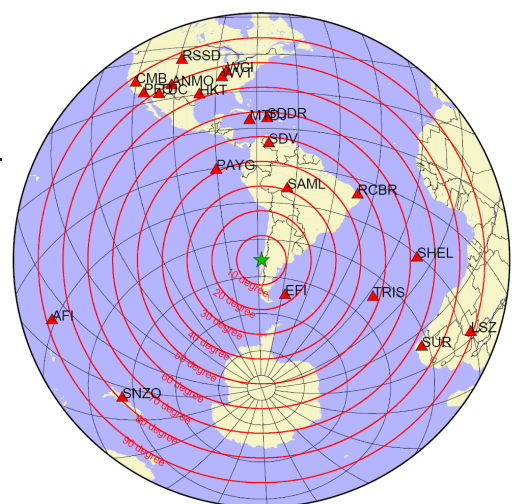
2011年1月3日05時20分（日本時間）にチリ中部沿岸で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.1であった。なお、最適位置はS38.9°, W73.7°となった（深さはUSGSによる25.1kmを使用した）。

W-phaseの解析では、震央距離10°～90°までの21観測点の上下動成分を用い、200～500秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。